

REHABILI

亜硝酸リチウムを用いた塩害・中性化・ASR補修技術

リハビリ工法

リハビリ工法 劣化の症状・程度に応じて最適な工法を選定

「リハビリ工法」は、塩害・中性化・ASRによって劣化したコンクリート構造物の亜硝酸リチウムを用いた補修技術の総称で、以下の表から成り立ちます。これらの工法は、それぞれの補修工法(圧入工法、ひび割れ注入工法、断面修復工法、表面保護工法)に適した亜硝酸リチウムを使用して構造物の劣化機構の程度や部位、規模などに応じて使い分けることができます。

リハビリ工法



① 亜硝酸リチウム内部圧入工
『リハビリ圧入工法』



② 簡易型亜硝酸リチウム内部圧入工
『リハビリカプセル工法』
NETIS:CG-120005-VR



③ ひび割れ注入工
『リハビリシリンダー工法』



④ 断面修復工
『リハビリ断面修復工法』
NETIS:CG-220003-A



⑤ 表面被覆工
『リハビリ被覆工法』



⑥ 表面含浸工
『プロコンガードシステムS』
NETIS:CG-190024-A



※新技術情報提供システム(NETIS【ネティス】)とは国土交通省が、新技術の活用のため、新技術に関わる情報の共有及び提供を目的として、新技術情報提供システム(New Technology Information System:NETIS)を整備。NETISは、国土交通省のイントラネット及びインターネットで運用されるデータベースシステムです。